3　各教科等の改訂のポイント

中学校　国語科

1　改訂の基本的な考え方

国語で正確に理解し適切に表現するために必要な知識及び技能として、語彙などの言葉の特徴や使い方、論理的な思考力の育成につながる情報の扱い方、我が国の言語文化を位置付け、着実な定着が図れるよう内容構造を見直した。また、「A　話すこと・聞くこと」「B　書くこと」「C　読むこと」の各領域において、学習過程を一層明確化するとともに、各学習過程で育成を目指す資質・能力が明確になるよう改善を図った。

2　目標の改善

言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。
(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに，言語感覚を豊かにし，我が国の言語文化に関わり，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語科で育成を目指す資質・能力を、従前の目標から「正確に理解」「適切に表現」の順に改訂し、国語で正確に理解し適切に表現する言語能力については、言語活動を通して育成することを示すとともに、育成を目指す三つの柱で整理し、生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要であることを示した。学年の目標についても、これまで各領域で示していた目標を、教科の目標と同様に三つの柱で整理した。

Point　(1) 各学年の目標は全学年同じであり、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるよう示している。
(2) 考える力 ･････････････････　筋道立てて考える力(1年)　→　論理的に考える力(2･3年)
感じたり想像したりする力･･　豊かに感じたり想像したりする力(1年) →　共感したり想像したりする力(2年)　→　深く共感したり豊かに想像したりする力(3年)
自分の思いや考え ･････････　確かなものにする(1年)　→　広げたり深めたりする(2･3年)
(3) 言葉がもつ価値･･････････････　気付く(1年)　→　認識する(2･3年)
読書･････････････････････････　進んで(1年)　→　生活に役立てる(2年)　→　自己を向上させる(3年)
我が国の言語文化･･････････････　言語文化を大切に(1･2年)　→　言語文化に関わり(3年)
※生徒の発達の段階や小学校との接続に配慮しながら、それぞれ系統的に育成を図るよう重点を置いている。

3　学習内容の改善・充実

・これまでの「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の３領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の１事項で構成していた内容を、〔知識及び技能〕と〔思考力，判断力，表現力等〕に構成し直すとともに、各指導事項で育成を目指す資質・能力が明確になるよう内容を改善した。
・従前の内容のうち、国語で正確に整理し適切に表現するために必要な「知識及び技能」を、〔知識及び技能〕と明示し、内容を「言葉の特徴や使い方・情報の扱い方・我が国の言語文化」の３事項とした。

Point　中教審答申で指摘された課題を踏まえ、「語彙」「情報の扱い方(新設)」「我が国の言語文化」「漢字」「読書」に重点を置き、螺旋的・反復的に繰り返しながら確実に習得させる。
漢字については、学年別漢字配当表に都道府県名に用いる漢字が20字追加され、32字の配当学年が移行されたので注意して指導する。
言葉の由来や変化に関する指導事項における「共通語と方言の果たす役割について理解すること」が、小学校高学年との接続を意図して、第２学年から第１学年に移行されているので注意する。

Point　〔思考力，判断力，表現力等〕の各領域で、学習過程のより一層の明確化を図るとともに、全ての領域で「考えの形成」に関する指導事項を位置付け、自分の考えを形成する学習過程を重視した指導を図るよう留意する。

4　学習指導の改善・充実

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たり、国語科では、生徒が言語活動の中で「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉の特徴や使い方などの「知識及び技能」や、自分の思いや考えを深めるための「思考力，判断力，表現力等」を身に付けていくことができるよう、学習指導の創意工夫を図ることが求められる。

Point　国語科においては、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることができるよう配慮することが必要である。
言語能力の向上を図るためには、国語科が中心となり、教科等横断的な視点で教育課程を編成するとともに、外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすることが重要である。
指導計画の作成に当たっては、生徒の言語能力が螺旋的に高まるよう、発達の段階を見通して目標の系統性を保ちながら、柔軟かつ弾力的な運用を図り、系統化した効果的な指導計画になるよう配慮する。

Point　語彙を豊かにするためには、各学年で指導すべき語句のまとまりを中心に、学習の中で必要となる多様な語句を取り上げるとともに、社会生活で使いこなせる語句を増やし、確実に習得させることが重要である。

Point　「A　話すこと・聞くこと」については、他教科等の学習や学校の教育活動全体の中で、学習したことを使う機会がもてるよう、年間指導計画に意図的、計画的に位置付けることが重要である。また、指導の際は、ＩＣＴ機器を活用するなど音声言語のための教材を活用し、指導の効果を高めるよう工夫することが大切である。

Point　読書の指導については、〔知識及び技能〕の「読書」に関する指導事項と、〔思考力，判断力，表現力等〕の「C　読むこと」の指導を通して、生徒の読書意欲を高め、生徒が様々な文章を読んで自分の表現に役立てられるようになるよう配慮することが重要である。学校図書館の利用など、〔知識及び技能〕に示された言語活動例を参考に指導するとともに、学校の教育活動全体における読書指導との密接な連携を図っていく必要がある。

Point　国語科の学習では、情報収集や情報発信の手段として、生徒がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設定し、指導の効果を高めるよう工夫することが重要である。